

青学大、初の箱根駅伝優勝

第91回東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)で初優勝した青山学院大学陸上競技部の原晋監督(47)が日本経済新聞のインタビューに応じた。「ワクワク大作戦」を合言葉にチームの明るさを前面に打ち出し、従来の陸上界にない発想で弱小集団を強い組織に変貌させた。就任11年目で悲願を達成した原監督に躍進の秘密を聞いた。



陸上競技部 原 晋監督

優勝メンバーが多くチームに残り、早くも連覇を期待する声が出ています。何を言ってるんですか！選手には走る気持ちで湧いたら練習しなさい、当分休もうぜ、と言いました。年に1度のビッグイベントで、大会新記録で優勝したんですよ。遮二無二1年間やってきたのに、明日から練習となれば誰でも嫌になる。仕事でも大きな成果を出した翌日からさへ、働かされたらうんざりするでしょ。きっちり切り替えるために喜びに浸ることは大事。成功体験は脳に残り、次の意欲につながりますから。中国電力を退社し、OBでもない青学大の監督に就任しました。あえて新天地に飛び込んだ理由はなんですか。人間、退路を断って初

最強集団「半歩先に目標」

る坂口さん(泰氏、中国電力陸上監督)はエスビー食品を辞め、中国電力で陸上部をゼロから立ち上げた。私が青学大に行へのも100人中、100人が反対しました。期待されて陸上選手として中国電力に入社したが、まったく恩返しもできずに現役を引退した。指導者として今度は逃げまい、と誓いました。中国電力時代、伝説

の営業マンと呼ばれたそうですね。ビジネスでもまれた経験は選手への指導・育成に生かされていますか。伝説のカリスマ営業マンでしたよ。本当に(笑)。1つの目標に向かっという取り組むのか、鍛えられました。今でも根っからのサラリーマンという気持ちは変わりません。就任前は3〜4年で箱根出場、7〜8年でシード権、10年で優勝争いと大学側に僕のビジョンを説明しました。サラリ

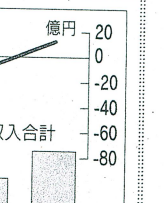
マンでも信頼を勝ち取るには、ある程度時間がかかります。陸上の指導もビジネスと同じです。指導する上で、工夫した点はありますか。ビジネスマン時代の習慣だった「目標管理シート」をチームに取り入れました。A4用紙に1年間の目標と1カ月ごとの目標、その下に個人の具体的な目標を書き込む。これを6人のグループミーティングで進捗状況など随時チェックします。大事な自分自身で目標を決め、自分の言葉で具体的に書き込ませることで、これが選手の「自立」につながるのです。

自分自身は体幹が弱いので、この練習を何回繰り返すかといった具体的な数字を書かせます。もう少し速く走る、といった抽象的な目標はダメ、実現がほぼ不可能な目標設定

もいけません。私は「半歩先」が口癖です。一步一步とよく言いますが、それより少し手前のイメージ。今できるこの半歩先を見つめながら、少しずつ向上していくだけでも4年間でものすごく成長につながるのです。明るさ、そして「チャラッ」がチームの代名詞になっていますね。Qちゃん(高橋尚子選手)を育てた小出義雄さんも外向きは明るい、が、厳しい練習で有名です。我々も明るさや楽しさが今は表に出ています、陰では血のにじむような努力をしています。(練習を見てもらって)あれ、原さんって笑顔で楽しくなんじゃなかったの、と驚くんじゃないかな。陸上部を本気で強化するためには専用グラウンドを持つなど練習環境の整備も重要でした

「意見・情報は電子メール daigaku@nikkei.co.jpへお寄せください。」

成功に浸る／自主性が大事



青学大の収支
所属収支差額
所属収入合計

2009年度 10 11 12 13
(注) 所属収入合計は授業料や寄付金、補助金などを含む収入のこと、所属収支差額は企業の経常利益に相当する

箱根駅伝の初優勝は創立140年を迎えた青学大にとって、明るい話題となった。大学経営では今春(途上)国や新興国で働ける人、教職員の一時金減額を

指定から漏れたことは1982年に国際政治経済学部を設立し、国際化に力を入れてきた同大には、厳しい結果となった。背景にはキャンパスの再配置がある。13年度、

2011年度から2年連続で支出超過だった。14年度も収入減から予算段階で赤字の見通しだ。

2011年度から2年連続で支出超過だった。14年度も収入減から予算段階で赤字の見通しだ。背景にはキャンパスの再配置がある。13年度、

校舎移転で財政悪化

「材料作り」を目的に「地球社会共生学部」を新設する。しかし、昨年、文部科学省が選考した「スーパーグローバル大学」の収支を赤字消費収支は

巡っては職員らが訴訟を起した。財政悪化が主な理由で、大学などを運営する学校法人の1年間を投じて4年間、青山で学

2011年度から2年連続で支出超過だった。14年度も収入減から予算段階で赤字の見通しだ。背景にはキャンパスの再配置がある。13年度、

万5千人前後と高水準の志願者数を維持している。都心の新しいキャンパスでより質の高い教育を提供できるか。陸上部のように長期の視野に立つて戦略を構築することが求められている。